

FUJIFILM

2012年度 第1四半期 決算説明会

富士フイルムホールディングス株式会社

2012年7月27日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

本日はお忙しいところお集まりいただき有難うございます。

富士フイルムホールディングス 2012年度第1四半期決算について
ご説明させていただきます。

2012年度第1四半期 決算 概況

- 円高影響による売上減(112億円)、営業利益減(34億円)
- 欧州の景気悪化による需要減
- モニター市場の成長鈍化によるフラットパネルディスプレイ材料の需要減
- メディカルシステム・ライフサイエンス、ドキュメントは堅調に推移
- イメージングソリューションは黒字化

**前年同期比では減収減益であるものの
想定内で推移**

2

2012年度第1四半期は、
対ユーロ円高影響により、売上で112億円、営業利益で34億円の影響を受けたことや
欧州の景気悪化による需要減などにより、厳しい事業環境でした。

また、フラットパネルディスプレイ材料において、
想定以上にモニター市場の成長が鈍化し需要減少の影響を受けましたが、
メディカルシステム・ライフサイエンス、ドキュメントなどの各事業が堅調でした。

イメージングソリューションは大幅に損益改善し黒字化いたしました。

前年同期比では減収減益となりましたが、会社想定内で推移しました。

第1四半期 業績 (2012年4月～2012年6月)

(単位:億円)

	2011年度1Q	2012年度1Q	対前年度
売上高	5,301 100.0%	5,183 100.0%	-118 -2.2%
営業利益	290 5.5%	209 4.0%	-81 -27.8%
税金等調整前 四半期純利益	281 5.3%	134 2.6%	-147 -52.5%
当社株主帰属 四半期純利益	145 2.7%	25 0.5%	-120 -82.7%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	30.13円	5.20円	-24.93円
為替 :米ドル	82円	80円	-2円
:ユーロ	117円	103円	-14円

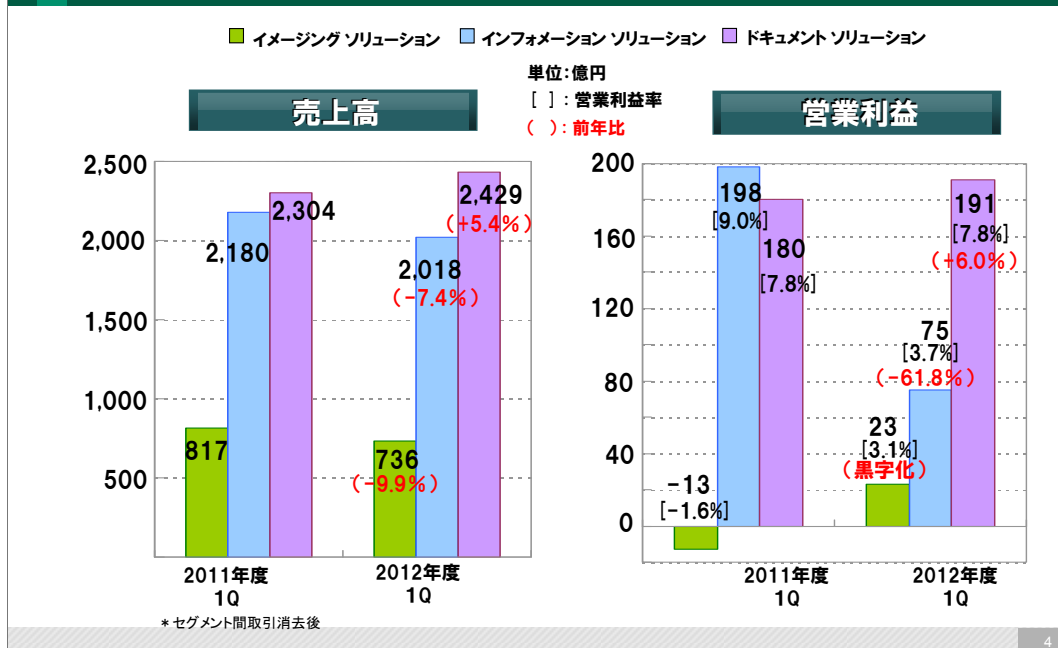
3

2012年度第1四半期の連結売上高は、前年同期比2.2%減の5,183億円、営業利益は、前年同期比27.8%減の209億円となりました。

税金等調整前四半期純利益は、為替の円高による為替差損が83億円発生したこと等により、前年同期比52.5%減の134億円、

当社株主帰属四半期純利益は、前年同期比82.7%減の25億円となりました。

セグメント別：連結売上高／営業利益



続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージングソリューション部門の売上高は、前年同期比9.9%減の736億円、営業利益は23億円となり黒字に転換しました。

インフォメーションソリューション部門の売上高は、前年同期比7.4%減の2,018億円、営業利益は前年同期比61.8%減の75億円となりました。

ドキュメントソリューション部門の売上高は、前年同期比5.4%増の2,429億円、営業利益は前年同期比6%増の191億円となりました。

セグメント別 概況

■ イメージング ソリューション

- ・フォトイメージングでは、カラーペーパーやインクジェット材料などのプリント材料製品の販売が堅調に推移。
- ・特にカラーペーパーは、欧州を始めとした世界各地での他社切り替え等により、販売が好調。
- ・デジタルカメラでは、ロングズーム機種や防水機種の販売が好調だったものの、コンパクトデジタルカメラ需要の減少により、売上が減少。

減収であったものの
フォトイメージングでの値上げ効果などにより
部門全体で増益・黒字化

5

イメージング ソリューション部門では、

フォトイメージング事業でカラーペーパーやインクジェット材料などのプリント材料製品の販売が堅調に推移しました。

特にカラーペーパーは、欧州を始めとした世界各地での他社切り替え等により、販売が好調でした。

一方、電子映像事業では、デジタルカメラのロングズーム機種や防水機種の販売が好調だったものの、コンパクトデジタルカメラの需要減少の影響を受け、売上が減少しました。

イメージング ソリューション部門は、減収であったもののフォトイメージングでの値上げ効果などにより部門全体で増益、黒字化しました。

セグメント別 概況

■ インフォメーション ソリューション

- フラットパネルディスプレイ材料は、プレーンTACの薄手フィルムの売上が増加。またVA用フィルム・IPS用フィルムも販売が好調。一方でモニター市場の成長鈍化により、WVフィルムの売上が減少し、全体で売上減。
- メディカルシステムでは、医用画像ネットワークシステムなどの販売が好調、また携帯型超音波診断装置メーカー「ソノサイト」の連結子会社化により売上が増加。医薬品は「ゾシン」等の既存薬の販売が引き続き好調に推移。化粧品の新商品が好評で、特に通販での払い出しが順調。
- 電子材料で引き続き売上が増加。グラフィック、記録メディア、光学デバイスは売上が減少。

**メディカル・ライフサイエンスは好調だったものの
部門全体で減収減益**

6

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

フラットパネルディスプレイ材料は、プレーンタックの薄手フィルムの売上が増加しました。

またVA用フィルム、IPS用フィルムも販売が好調でしたがモニター市場が想定よりも伸び悩み、在庫調整も行われたことによりWVフィルムの販売が減少し、全体の売上也減少しました。

メディカルシステム・ライフサイエンスでは、メディカルシステムの医用画像情報ネットワークシステムなどの販売が好調、また携帯型超音波診断装置メーカー「ソノサイト」の連結子会社化により売上が増加しました。

また医薬品は「ゾシン」などの既存薬の販売が好調に推移し、化粧品の新商品もクチコミサイトでNo. 1を獲得するなど好評で、特に通販での払い出しが順調でした。

電子材料事業は、ArF液浸レジストなどの販売が好調で売上が増加しました。

一方、円高影響が大きかったグラフィックシステム、業務用ビデオテープの販売が減少した記録メディア、また携帯電話用カメラレンズの販売が減少した光学デバイスでは売上が減少しました。

インフォメーションソリューション部門は、フラットパネルディスプレイ材料の売上減少や欧州の景気悪化など外部環境の影響が大きく、全体としては減収減益となりました。

セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

- ・部門全体で、国内、アジア・オセアニア地域、米国ゼロックス社向け輸出いずれも売上が増加。
- ・オフィスプロダクトの国内におけるコピー枚数は、震災影響を受けた前年同期比で増加。
- ・プロダクションサービスは、アジア・オセアニア地域において販売が引き続き好調。
- ・グローバルサービスは、国内及びアジア・オセアニア地域ともに売上が2桁成長。

前年同期の震災影響を除いても
増収増益を達成

ドキュメントソリューション部門については、部門全体で、国内、アジア・オセアニア地域、米国ゼロックス社向け輸出のいずれにおいても売上が増加しました。

またオフィスプロダクトの国内では、震災影響を受けた前年同期比で、コピー枚数が増加しました。

プロダクションサービスは、アジア・オセアニア地域において、販売が引き続き好調に推移しました。

またグローバルサービスは、国内およびアジア・オセアニア地域ともに売上が2桁成長しました。

ドキュメントソリューション 部門は、前年同期の震災影響を除いても、増収増益を達成しました。

連結貸借対照表

(単位:億円)									
	10年度末	11年度末	12年6月末	対11年度末		10年度末	11年度末	12年6月末	対11年度末
現金及び現金同等物	3,131	2,351	2,585	234	長短社債及び借入金	1,896	1,989	2,013	24
受取債権	5,022	5,565	4,827	-738	支払債務	2,614	2,584	2,310	-274
棚卸資産	3,422	3,780	3,960	180	その他流動固定負債	4,069	4,259	4,257	-2
有価証券 その他流動資産	1,533	1,524	1,522	-2	負債計	8,579	8,832	8,580	-252
流動資産計	13,108	13,220	12,894	-326	株主資本計	17,225	17,218	16,943	-275
有形固定資産	5,641	5,539	5,405	-134	非支配持分	1,284	1,347	1,335	-12
営業権	3,444	3,935	3,714	-221	純資産計	18,509	18,565	18,278	-287
投資有価証券 その他資産	4,895	4,703	4,845	142	負債・純資産 合計	27,088	27,397	26,858	-539
固定資産計	13,980	14,177	13,964	-213	(単位:円)				
資産合計	27,088	27,397	26,858	-539	期末日 為替レート	10年度末	11年度末	12年6月末	対11年度末
					米ドル	83	82	79	3円高
					ユーロ	118	110	99	11円高

続いて、バランスシートについてご説明します。

2012年6月末時点の資産は、受取債権が減少したことや、為替の円高影響などにより、3月末と比べ539億円減の2兆6,858億円となりました。

負債は、支払債務が減少したことなどにより、252億円減の8,580億円となりました。

株主資本は、275億円減の1兆6,943億円となりました。

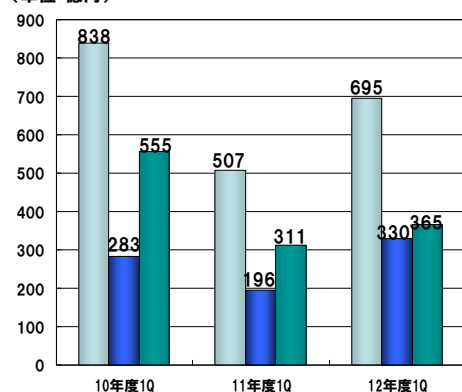
流動比率は3月末に比べ2.1ポイント増の193.0%、負債比率は0.7ポイント減の50.6%、株主資本比率は0.3ポイント増の63.1%で、資産の流動性及び資本構成の安定性を、ともに維持しています。

キャッシュフロー

(単位:億円)

- 営業活動によるキャッシュフロー
- 投資活動によるキャッシュフロー
- フリーキャッシュフロー

(単位:億円)



	10年度 1Q	11年度 1Q	12年度 1Q
四半期純利益	202	174	62
減価償却費	384	349	336
受取債権の増(-)減(+)	300	298	578
棚卸資産の増(-)減(+)	-252	-182	-262
営業債務の増(+)-減(-)	-70	-273	-183
未払法人税等他負債の増(+)-減(-)	129	203	164
その他	145	-62	0
営業活動によるCF	838	507	695
設備投資	-157	-243	-217
ソフトウェアの購入	-34	-36	-36
有価証券・投資有価証券等の売却・購入	-60	151	56
その他	-32	-68	-133
投資活動によるCF	-283	-196	-330
フリーキャッシュフロー	555	311	365
営業活動によるCF+設備投資	681	264	478

9

続いて、キャッシュフローについてご説明します。

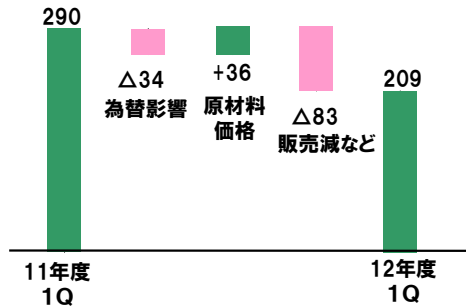
営業活動で、受取債権の減少などにより695億円のキャッシュが増加しましたが、投資活動では、設備投資などにより、330億円の支出となり、フリーキャッシュフローは365億円となりました。

2012年度 第1四半期 決算説明会

参考資料

次のページ以降に参考資料としてセグメント別業績の詳細などを掲載しておりますので、ご確認ください。

営業利益 増減要因



(単位:億円)

2011年度 1Q	2012年度 1Q			実績
	為替影響	原材料価格	販売増減など	
290	▲34	+36	▲83	209

	2011年度1Q (平均)	2012年度1Q(平均)	対前年度
為替			
米ドル	82円	80円	2円高 (2.4%高)
ユーロ	117円	103円	14円高 (12.0%高)
原材料			
銀	101,000円/Kg	79,000円/Kg	▲22,000円(▲21.8%)

< 当スライドは配付資料です >

第1四半期 セグメント別 業績

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	2011年度 1Q	2012年度 1Q	対前年度
フォトイメージング	497	478	-19 (-3.7%)
電子映像	320	258	-62 (-19.5%)
合計	817	736	-81 (-9.9%)

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2011年度 1Q	2012年度 1Q	対前年度
イメージング ソリューション	-13 [-1.6%]	23 [3.1%]	36 (黒字化)

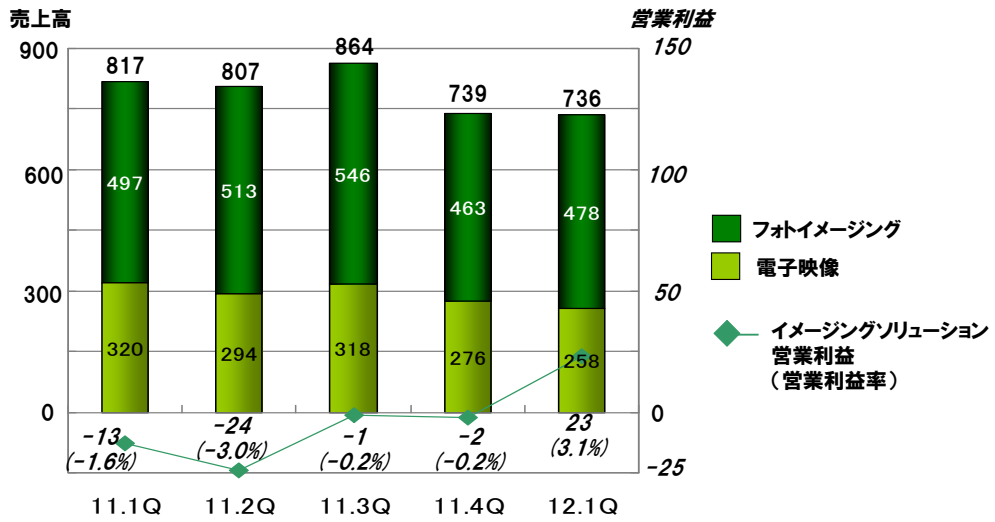
*セグメント間取引消去後

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高推移

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)



*セグメント間取引消去後

<当スライドは配付資料です>

第1四半期 セグメント別 業績

■ イメージング ソリューション

フォトイメージング

- カラーペーパーやインクジェット材料などプリント材料製品が堅調に推移。
- 欧州を始めとした世界各地での他社切り替え等により、特にカラーペーパーが好調。

電子映像

- コンパクトデジタルカメラの需要減の影響で売上が減少したが、「FinePix HS30EXR」などのロングズーム機種や「FinePix XP50」などの防水機種が好調に推移。
- 「FUJIFILM X-Pro1」は、世界60ヶ国以上に導入。交換レンズやアクセサリとセットでシステムとして訴求を強化。

< 当スライドは配付資料です >

第1四半期 セグメント別 業績

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	2011年度 1Q	2012年度 1Q	対前年度
メディカルシステム ライフサイエンス	611	676	65 (+10.6%)
グラフィックシステム	577	553	-24 (-4.2%)
フラットパネルディスプレイ	535	372	-163 (-30.4%)
記録メディア	120	98	-22 (-17.9%)
産業機材/電子材料他	197	203	6 (+2.3%)
光学デバイス	140	116	-24 (-16.5%)
合計	2,180	2,018	-162 (-7.4%)

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2011年度 1Q	2012年度 1Q	対前年度
インフォメーション ソリューション	198 [9.0%]	75 [3.7%]	-123 (-61.8%)

*セグメント間取引消去後

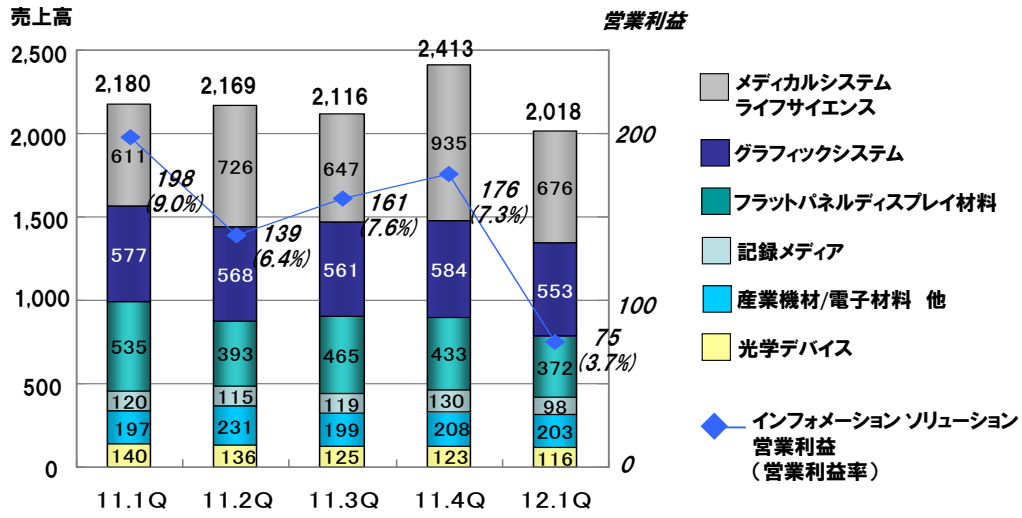
15

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高推移

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)



<当スライドは配付資料です>

第1四半期 セグメント別 業績

■ インフォメーション ソリューション

メディカルシステム・ライフサイエンス

【メディカルシステム】

- ネットワークシステム分野の売上が増加。医療用画像情報ネットワークシステム「SYNAPSE」は国内約1,750の医療施設に導入されトップシェアを維持。
- 小型FCR「FCR PRIMA T」の販売が引き続き好調。
- 携帯型超音波診断装置メーカー「ソノサイト」の連結子会社化により売上が増加。

【医薬品】

- 医薬品は、「ソシン」「オゼックス細粒」「ジェニナック」等の販売が好調に推移し、富山化学の売上が伸長。
- 富山化学の抗リウマチ薬「コルベツ錠(T-614)」が2012年6月29日に製造販売承認。
- 富士フィルムファーマが、バイエル薬品の3薬剤(グルコバイ、アベロックス、シプロキサン)専売権獲得の契約を締結。

【ライフサイエンス】

- 化粧品「アスタリフト」は、2012年春の新商品「ディプロテクターホワイト」、「ライトアナライジングメラノレタッチコンシーラー」等によるシミ対策の訴求により、通販及び店頭での払い出し促進。春の新商品は、美容専門誌及び化粧品口コミサイトのベストコスメ企画において第1位を獲得するなど好評。

< 当スライドは配付資料です >

第1四半期 セグメント別 業績

フラットパネルディスプレイ材料

- プレーンTACの薄手フィルム(60 μ)の売上増。またVA用フィルム・IPS用フィルムも販売が好調。
- モニター市場の成長鈍化により、WVフィルムの売上が減少。

グラフィックシステム

- 主力の刷版材料を中心に各製品とも販売は好調に推移したものの、円高影響により売上が若干減少。

記録メディア

- コンピューターテープの販売が堅調に推移したものの、為替影響や業務用ビデオテープの販売減少により売上が減少。

産業機材/電子材料 他

- 工業用X線フィルムの販売が好調に推移。
- ArF液浸レジスト、イメージセンサー用カラーモザイクなどの販売が好調で売上が増加。

光学デバイス

- テレビカメラ用レンズなどの販売は前年同期並だったが、携帯電話用カメラレンズの販売が減少したことなどにより、売上が減少。

< 当スライドは配付資料です >

第1四半期 セグメント別 業績

■ ドキュメント ソリューション

(単位:億円)

売上高	2011年度 1Q	2012年度 1Q	対前年度
オフィスプロダクト	1,163	1,231	68 (+5.9%)
オフィスプリンター	370	402	32 (+8.7%)
プロダクションサービス	352	345	-7 (-1.9%)
グローバルサービス	214	238	24 (+11.0%)
その他	205	214	9 (+3.6%)
合計	2,304	2,429	125 (+5.4%)

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2011年度 1Q	2012年度 1Q	対前年度
ドキュメント ソリューション	180 [7.8%]	191 [7.8%]	11 (+6.0%)

*セグメント間取引消去後

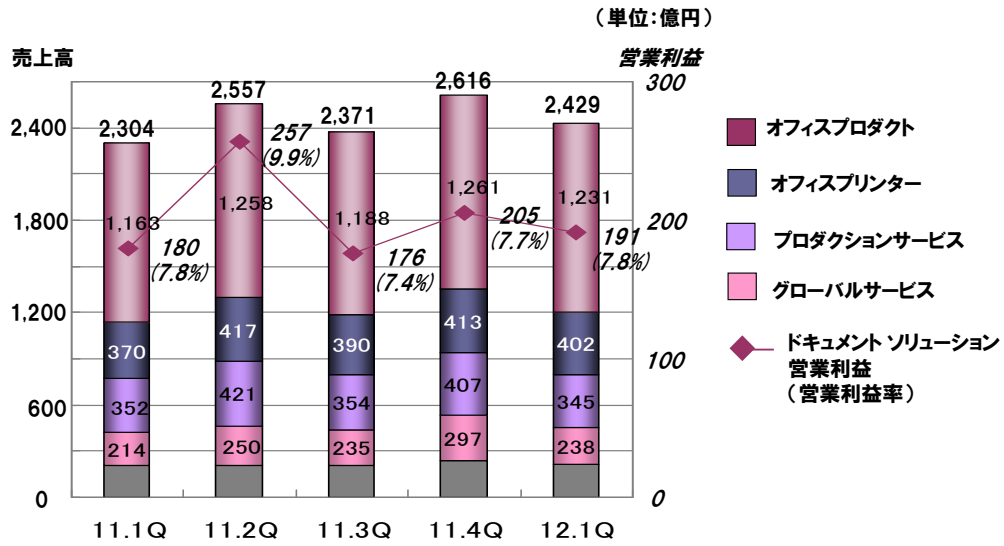
*オフィスプロダクト・プロダクションサービスにおいて商品分類の組み換えを行っております。

19

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高推移

■ ドキュメント ソリューション



*セグメント間取引消去後

*オフィスプロダクト・プロダクションサービスにおいて商品分類の組み換えを行っております。

20

<当スライドは配付資料です>

第1四半期 セグメント別 業績

■ ドキュメント ソリューション

オフィスプロダクト

- 国内は、カラー機・モノクロ機ともに販売台数が増加し、コピー枚数も増加。
- アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出において カラー機・モノクロ機ともに販売台数が増加。

オフィスプリンター

- 国内は、カラー機・モノクロ機ともに販売台数が増加。
- 米国ゼロックス社向け輸出においても、低速機の出荷が伸長し、出荷台数が大幅に増加。

プロダクションサービス

- アジア・オセアニア地域において、カラー・オンデマンド・パブリッシング・システムの販売好調により販売台数が増加。
- 米国ゼロックス社向け輸出において、出荷台数が増加。

グローバルサービス

- 国内、アジア・オセアニア地域ともに売上が2桁増加。

< 当スライドは配付資料です >

国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2011年度 1Q		2012年度 1Q		対前年度
	構成比 (%)		構成比 (%)		
日本	44.4%	2,354	44.1%	2,284	-70 (-3.0%)
米州	16.8%	889	18.1%	938	49 (+5.5%)
欧州	12.4%	656	12.0%	623	-33 (-5.0%)
内、中国	9.6%	512	8.8%	455	-57 (-11.1%)
アジア他	26.4%	1,402	25.8%	1,338	-64 (-4.5%)
海外	55.6%	2,947	55.9%	2,899	-48 (-1.6%)
合計	100.0%	5,301	100.0%	5,183	-118 (-2.2%)

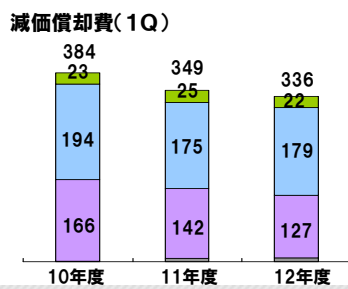
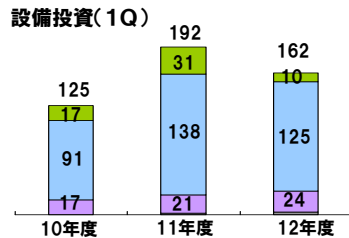
22

<当スライドは配付資料です>

設備投資、減価償却費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)



	2010年度		2011年度		2012年度	
	1Q	年度	1Q	年度	1Q	年度 (予想)
イメージング	17	81	31	92	10	100
インフォメーション	91	618	138	598	125	680
ドキュメント	17	195	21	193	24	290
コーポレート	0	5	2	26	3	30
設備投資 ※	125	899	192	909	162	1,100
イメージング	23	101	25	108	22	-
インフォメーション	194	774	175	763	179	-
ドキュメント	166	658	142	575	127	-
コーポレート	1	38	7	32	8	-
減価償却費	384	1,571	349	1,478	336	1,570
有形固定資産の減価償却費 ※	252	1,066	222	966	209	1,100

※ ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

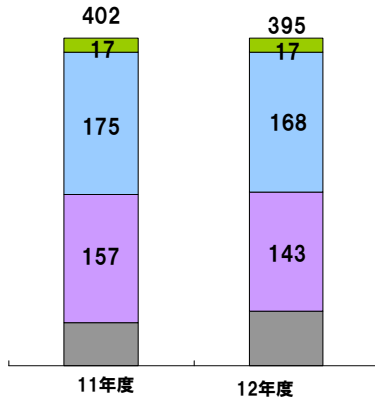
< 当スライドは配付資料です >

研究開発費、販売費および一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)

研究開発費(1Q)



	2011年度		2012年度	
	1Q	年度	1Q	年度 (予想)
イメージング	17	72	17	-
インフォメーション	175	769	168	-
ドキュメント	157	641	143	-
コーポレート	53	252	66	-
研究開発費	402	1,734	395	1,800
<売上高比>	7.6%	7.9%	7.6%	7.6%
販売費及び一般管理費	1,435	5,814	1,448	-
<売上高比>	27.0%	26.5%	28.0%	-

<当スライドは配付資料です>

為替、為替感応度、人員

為替

(単位:円)

	2011年度					2012年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年度	1Q	年度 予想
米ドル	82	78	77	79	79	80	78
ユーロ	117	110	104	104	109	103	103

*2012年度 営業利益 為替感応度 米ドル:14億円、ユーロ9億円

人員

(単位:人)

	2011.6末	2011.9末	2011.12末	2012.3末	2012.6末
連結	79,367	81,387	81,316	81,691	80,155

<当スライドは配付資料です>

富山化学工業(株) 新薬開発スケジュール

開発番号	薬効	地域*	開発段階					剤形
			非臨床試験	P I	P II	P III	申請	
T-705	抗ウイルス剤	日本						経口
		米国						
T-3811	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	日本						注射**
		米国						経口/注射
		欧州						
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	米国						経口
T-5224	抗リウマチ剤	日本						経口
		海外						
T-2307	抗真菌剤	米国						注射
T-1106	抗ウイルス剤	日本						経口

* 海外については富士フィルムグループとして開発

** 経口剤は「ジェニナック」として発売

T-705は、日本においてP IIIが終了し、2011年3月30日に製造販売承認申請済み。

T-614は、2012年6月29日に製造販売承認を取得しました。

<当スライドは配付資料です>

FUJIFILM

2012年度 第1四半期 決算説明会

2012年度 通期業績予想と施策

代表取締役社長・COO
中嶋 成博

2012年7月27日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

2012年度 連結業績予想 (2012年7月27日時点)

(単位:億円)

	2011年度	2012年度(予想)	対前年度
売上高	21,953 100.0%	23,700 100.0%	1,747 +8.0%
営業利益	1,129 5.1%	1,400 5.9%	271 +24.0%
税金等調整前 当期純利益	892 4.1%	1,350 5.7%	458 +51.4%
当社株主帰属 当期純利益	438 2.0%	650 2.7%	212 +48.5%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	90.84円	134.94円	44.10円
為替 :米ドル :ユーロ	79円 109円	78円 103円	-1円 -6円

28

2012年度の連結業績は、
売上高2兆3,700億円、営業利益1,400億円を予想しております。

これは2011年度と比べ、売上高は8%、営業利益は24%の増加となります。

円高や欧州の景気不安などの懸念はありますが、
第1四半期が会社想定線内で推移したことから、
4月27日に発表しました通期業績予想からの変更はございません。

セグメント別 業績予想 (2012年7月27日時点)

売上高 目標(通期): 2兆3,700億円

(単位: 億円)

	売上高	対前年度
イメージング ソリューション	3,500	273 (+8.5%)
インフォメーション ソリューション	9,900	1,022 (+11.5%)
ドキュメント ソリューション	10,300	452 (+4.6%)
合計	23,700	1,747 (+8.0%)

営業利益 目標(通期): 1,400億円

*2012年度 営業利益 為替感応度 米ドル: 14億円、ユーロ9億円 銀価格 86,000円/kg

29

連結業績予想のセグメント別内訳ですが、

売上高については
イメージング ソリューションが3,500億円、
インフォメーション ソリューションが9,900億円、
ドキュメント ソリューションが1兆300億円、
となっております。

また、今年度は、
下期以降に新製品投入効果や諸施策の展開により
利益の大幅拡大を図る計画のため、
下期で利益を積み上げる計画となっております。

第1四半期までは想定内で利益は推移しておりますが、
通期の営業利益目標である1,400億円の達成に向けた、
第2四半期以降の主な施策を、これからご説明いたします。

営業利益 目標達成のための主な施策

第2四半期以降の主な施策

- ・ フラットパネルディスプレイ材料事業の市場回復とシェア拡大
- ・ 高機能材料の新製品(「エクスクリア」、太陽電池用高耐候PETフィルムなど)の導入
- ・ レーザー内視鏡や医療機器等のメディカルシステム新製品の販売
- ・ 既存薬に加え、製造販売承認を取得した「コルベット錠」等の医薬品の販売強化
- ・ デジタルカメラの中高級機種の販促強化とシステムラインアップの拡充
- ・ 「Jet Press」など、デジタルプリンティングの販売強化

30

主な施策として、

- ・フラットパネルディスプレイ材料事業の市場回復への期待とシェア拡大
- ・「エクスクリア」、太陽電池用高耐候PETフィルムなどの、高機能材料の新製品導入
- ・レーザー内視鏡や医療機器等のメディカルシステム新製品の拡販
- ・既存薬に加え、今年6月29日に製造販売承認を取得した「コルベット錠」などの医薬品の販売強化
- ・デジタルカメラの中高級機種の販促強化と、システムラインアップの拡充
- ・「ジェットプレス」など、デジタルプリンティングの販売強化

を行います。

引き続き、セグメント別の主な取り組みをご説明いたします。

営業利益 目標達成のための主な施策

イメージングソリューション

■フォトイメージング

- ・ カラーペーパーの更なるシェアアップ
- ・ 新興国での更なる拡販
- ・ 販売価格の見直しによる収益維持・確保

■電子映像

- ・ 交換レンズ新製品投入によるレンズラインアップの拡充と、システム提案によるX-Pro1の更なる拡販
- ・ Xシリーズと中高級機種(F/HS/Sシリーズ)の販促強化
- ・ BRICSおよび新規設立現法を中心とした新興国における販売体制強化



31

まず、イメージングソリューション部門です。

フォトイメージングでは、

- ・ フォトブックなどの付加価値品販売によるカラーペーパーの更なるシェアアップ
- ・ 新興国での更なる拡販
- ・ 販売価格を見直すことによる収益の維持・確保

を行います。

電子映像では、

- ・ XFレンズの新製品投入によるラインアップの拡充と、システム提案によるX-Pro1の更なる拡販
- ・ Xシリーズとロングズーム機種の販売強化
- ・ BRICSおよび新規設立現法を中心とした新興国における販売体制強化

などの施策を行います。

営業利益 目標達成のための主な施策

インフォメーション ソリューション

■フラットパネルディスプレイ材料

- ・ VA用フィルム・IPS用フィルム・プレーンTACフィルムのシェア拡大
- ・ 薄手フィルム(60 μ 、40 μ)の拡販
- ・ 本年度中に新たに2ラインを稼働させ、プレーンTAC、IPS用フィルム、VA用フィルムの生産能力を増強

*フラットパネルディスプレイ材料/今後の戦略

大型テレビ用に加え、スマートフォン向けなどの中小型ディスプレイ用フィルムのシェア拡大へ

- ・ 2000年より続けてきた生産ライン増設の設備投資は本年度で一区切りをつける。今後は生産技術の改良を主体とし、「生産技術の高度化」により増産や様々な用途のフィルムを生産できる体制に移す。
- ・ 中小型ディスプレイ用フィルムの開発にも注力。開発に特化したラインを準備。

32

続いてインフォメーション ソリューション部門の今後の取り組みです。

まずフラットパネルディスプレイ材料については、モニター市場の成長は鈍化傾向が続く懸念はありますが、WVフィルムの在庫調整も解消すると見込まれることに加え、VA用フィルム・IPS用フィルム・プレーンタックフィルムのシェア拡大により売上確保を狙います。また引き続き薄手フィルムの拡販にも力を入れます。生産体制については、本年度中に新たに2つのラインを稼働させ、プレーンタック、IPS用フィルム、VA用フィルムの生産能力を増強します。

第2四半期以降はこれらの拡販施策により、通期で前年度並みの売上高を目指しております。

ここで、フラットパネルディスプレイ材料の今後の戦略をご説明します。大型テレビ用フィルムに加え、スマートフォン向けなどの中小型ディスプレイ用フィルムのシェア拡大を狙います。生産体制では、設備投資には目処をつけ、今後は生産技術の改良を主体として、生産技術の高度化により、増産や様々な用途のフィルムを生産できる体制に移します。開発では、中小型ディスプレイ用フィルムの開発にも注力し、開発に特化したラインも準備します。

営業利益 目標達成のための主な施策

インフォメーション ソリューション(つづき)

■メディカルシステム

- ・ 最大需要期である4Qに向けた商談進行
- ・ 付加価値の高い新製品(レーザー内視鏡等)の投入
- ・ 新興国向け医療機器販売強化
- ・ ソノサイト社の携帯型超音波診断装置の拡販

■ライフサイエンス

- ・ 20-30代女性をターゲットとした化粧品新ブランド「ルナメア」発売、新規顧客層の獲得
- ・ 機能性化粧品「アスタリフト」は新成分を配合し、新「アスタリフト」としてリニューアル販売
- ・ 海外展開の強化

■医薬品

- ・ 「ゾシン」「オゼックス細粒」「ジェニナック」の更なる拡販
- ・ 6月に承認を取得した「コルベット錠」の販売開始
- ・ バイエル薬品3薬剤販売開始による富士フィルムファーマの売上拡大(9月~予定)

33

続いてメディカルシステムですが、本ビジネスは第4四半期が最大の需要期となっており、その需要期に向けて商談を進めるとともに、レーザー内視鏡等、付加価値の高い新製品を投入します。また、成長が続く新興国で、医療機器の販売を強化します。そして3月に連結子会社化したソノサイト社の、携帯型超音波診断装置の拡販もはかかります。

ライフサイエンスでは、先日発表しました20代から30代女性をターゲットとした新ブランド「ルナメア」を7月25日に発売開始し、新規顧客層を取り込みます。またブランド認知も上がってまいりました、エイジングケアの機能性化粧品「アスタリフト」も新成分を配合し、9月にリニューアル発売を予定しています。また先行して市場展開しているアジアに引き続き、欧州地域での販売も拡大いたします。欧州ではフランスに続きイギリスでの販売も始めています。

医薬品は、販売が好調な既存薬の更なる拡販、またバイエル薬品との販売提携契約に基づく販売や、ジェネリック品の拡販を行います。

営業利益 目標達成のための主な施策**インフォメーション ソリューション(つづき)****■グラフィックシステム**

- ・ 刷版事業における環境対応システムや無処理製品の拡販によるシェア拡大や利益率向上
- ・ 新会社設立によるワールドワイドの営業・マーケティング・技術サービス力の強化
- ・ 「Jet Press」及びワイドフォーマットプリンターを中心にデジタルプリンティング分野での販売強化

■産業機材/電子材料 他

- ・ 透明導電性フィルム「エクスクリア」や太陽電池用高耐候PETフィルムなどの新製品を市場投入
- ・ 引き続きArFレジストやCMPスラリーの拡販を推進

■記録メディア

- ・ バリウムフェライト磁性体を使用した磁気テープの拡販

■光学デバイス

- ・ 高画素を中心としたスマートフォン用薄型カメラモジュールの受注拡大
- ・ 利益率の高いテレビカメラ用レンズの拡販
- ・ 生産効率化等によるコストダウンの推進

34

グラフィックシステムは、刷版事業でのシェア拡大や利益率の向上を図るとともに、新会社設立により国内で培ったワールドワイドでの営業・マーケティング・技術力をワールドワイドに展開し、事業体制を強化して参ります。

また、ジェットプレスやワイドフォーマットプリンターを中心に、デジタルプリンティング分野での販売を強化します。

産業機材・電子材料では、成長が見込まれるタッチパネル分野や環境・エネルギー分野への新製品の市場投入、また販売が好調なArFレジストやCMPスラリー等の拡販を進めます。

記録メディアでは、バリウムフェライト磁性体を使用した磁気テープを引き続き拡販します。

光学デバイスでは、高画素を中心としたスマートフォン用薄型カメラモジュールの受注拡大、また利益率の高いテレビカメラ用レンズを拡販します。さらに生産効率化などによるコストダウンも推進します。

営業利益 目標達成のための主な施策

ドキュメント ソリューション

■商品・サービス

- ・ グローバルサービス、プロダクションサービス及びソリューションサービス(一般オフィス向け)の強化と拡大
- ・ 競争力の高い商品の拡販による売上の拡大
ApeosPort-IV/DocuCentre-IVシリーズなど

■地域戦略

- ・ 国内6地域での統轄会社設立による広域マーケティング展開を通じたソリューション・サービスの提供
- ・ アジア・オセアニア地域での拡販、米国ゼロックス社と協業して欧米、新興国での拡販

■全チャネル、全事業領域における生産性改善等の体質強化による収益の向上

35

最後にドキュメント ソリューション分野では、グローバルサービス、プロダクションサービス及び一般オフィス向けのソリューションサービスの強化と拡大を図ります。顧客視点に立った付加価値の高いサービスの提供により、さらなる成長を目指します。

また販売が好調な、ApeosPort-IV(アペオスポートフォー)・DocuCentre-IV(ドキュセンターフォー)シリーズなどの競争力の高い商品の拡販による売上増加を目指します。

地域戦略では、国内6地域での統轄会社設立により、広域マーケティング展開を通じたソリューションサービスの提供を行います。また中国を始めとしたアジア・オセアニア地域での拡販に加え、米国ゼロックス社との協業により、欧米・新興国での拡販も図ります。

そして、2013年度の営業利益率10%の実現に向け、更なる収益向上を目指し、全チャネル・全事業領域における生産性改善等の体質強化を図ります。

FUJIFILM

わたしたちは、先進・独自の技術をもって、
最高品質の商品やサービスを提供する事により、
社会の文化・科学・技術・産業の発展、
健康増進、環境保持に貢献し、
人々のクオリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>

以上、2012年度の業績見通しと施策についてご説明いたしました。

ご静聴いただき、ありがとうございました。